

# 山や草むらでの 野外活動の際は、 マダニに注意 しましょう!!



## 主な症状は…

### 1 重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)

- 刺されてから6日～2週間程度で、原因不明の発熱、食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛。
- インフルエンザのような頭痛、筋肉痛、意識障害、けいれん、昏睡、リンパ節腫脹、咳など。
- 出血症状(紫斑、下血)などの症状や、重症化して死亡することもあります。

### 3 ライム病

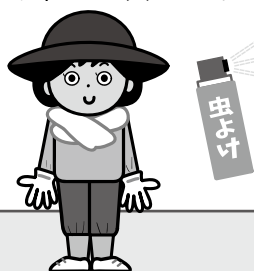
- 刺されてから、1～3週間後に刺された部分を中心に紅斑が見られます。
- 筋肉痛、関節痛、頭痛、発熱、悪寒、倦怠感などのインフルエンザのような症状が見られます。
- 症状が進むと全身性に広がり、皮膚症状、神経症状、心疾患、眼症状、関節炎、筋肉炎など多彩な症状が見られます。

いずれの疾患も、症状には個人差があり、ダニに刺されたことに気が付いていなかったり、刺し口が見つからなかったりする場合も多くあります。見た目だけの診断は困難です。治療が遅れると重症化や死亡する場合もありますので、早めに医療機関に相談しましょう。

受診時には、〇月〇日、山に行った 〇月〇日、草刈作業した あの時、ダニに刺されたかもしれない など 日付、場所、発症前の行動(2週間程度)を覚えていただくと治療の参考になります。

予防するためのワクチンなどはありません。ダニに刺されないようにするのが予防法です。

- マダニやつつが虫は木の葉や草むらの土の表面に生息しているので、できるだけ草むらに入らない。
- 野山に行く際は長そで、長ズボンなどを着用しできるだけ肌を露出しない。
- 草の上に直接座ったり、寝転んだりせず、敷物を利用する。
- 脱いだ上着やタオルは、不用意に地面や草の上に置かない。
- 虫よけスプレーを活用する。
- 帰宅後、すぐに入浴し、着替える。 …などを心掛けることが重要です。



【お問い合わせ先】四万十町国保大正診療所 ☎27-0210

## ダニからの感染症のおはなし

春から秋にかけては、山菜採り、キャンプ、農作業など、山や草むらで活動する機会が多くなる季節です。野山に生息するダニに刺されることで起こる感染症のリスクも高まります。

感染症は、リケッチアやウイルスという病原体を保有するダニなどに刺されることで起こります。ペットや屋外で動物と接触して感染症を起こしたという報告もあります。

### 2 日本紅斑熱・つつが虫病

- 刺されてから、日本紅斑熱は2～8日後に、つつが虫病は10～14日後に、高熱、発疹、刺し口(ダニに刺された部分は赤く腫れ、中心部がかさぶたになる)が特徴的な症状。
- 紅斑は四肢や体幹部に広がっていき、紅斑は痒くなったり、痛くなったりすることは少ないようです。
- 治療が遅れると重症化や死亡する場合もあります。

### 4 マダニ媒介性の回帰熱

- 刺されてから、12～16 日程度(平均15 日)に 発熱、頭痛、悪寒、筋肉痛、関節痛、全身の倦怠感などのインフルエンザのような症状が見られます。
- ひどくなると意識障害、けいれん、昏睡、リンパ節腫脹、呼吸不全、出血症状(歯肉出血、紫斑、下血)が現れます。



ビシッと決めた情熱の舞で見物客を魅了

## 雨のよさこい、「四万夢多」渾身の舞

「第72回よさこい祭り」が8月10日、11日の2日間、高知市で開催され、「四万十町よさこい踊り子隊 四万夢多」が参加しました。今年のテーマは『神紅(しんく)～情熱～』。本祭出場10回目の節目となった今年、さらなる情熱をもってたくさんの人々を魅了したいという想いを込めて、軽快な楽曲や振付、鮮やかな衣装が制作されました。

本祭当日は、あいにくの雨にもかかわらず多くの見物客からの声援を受け、踊り子も笑顔で踊りきり「こんな雨の中での演舞はめったにない」「いい思い出になった」といった声が聞かれました。

代表の東山倫さんは、「皆さんの声援のおかげで、踊り子も最高の演舞ができた。四万夢多の踊りを通して今後も四万十町を盛り上げていきたい」と、意気込みを語ってくれました。



夜空を染める600発の花火

## 夏の夜空を彩る「窪川花火大会」

窪川地区の夏の風物詩「窪川まつり花火大会」が、8月9日に開催されました。本町ポケットパークには商工会青年部主催の恒例の「チャリティービアガーデン」がオープン。また商店街にも多くの出店が並び、家族連れや帰省客らで大いににぎわいを見せていました。

20時になると窪川高校グラウンドから昨年より多い約600発の花火が豪快に打ち上げられ、夜空に大輪の花を咲かせました。

来場者からは感動の声が聞かれるなど、商店街や四万十緑林公園、窪川中学校など思い思いの場所で夏の花火を楽しんでいました。



最初は静かに始まったつかみ取りも、徐々に激しく!

## 花火とつかみ取りに熱狂「四万十川まつり」

十和地域の夏の風物詩「第51回四万十川まつり」が8月14日、ふるさと交流センターで開催されました。

アメゴやウナギのつかみ取りでは、子どもたちがプール内を駆け回り、袋いっぱい川魚の幸を持ち帰っていました。また、会場内には多数の出店も並び、家族連れらで大いににぎわっていました。

祭りの最後にはおよそ800発の花火が打ち上げられ、十和の夏の夜空を彩りました。